

研究・調査報告書

| | |
|---|----------------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 275 | 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Types of alcoholic beverages usually consumed by students in 9th-12th grades--four states, 2005. 第9-12学年の学生がよく飲むアルコール飲料はどんなものか-2005年4州における検討 | |
| 執筆者 | |
| Centers for Disease Control and Prevention (CDC). | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2007 Jul 27;56(29):737-40. | |
| キーワード | |
| アルコール飲料の種類、若年者、飲料特異的 | |
| 要旨 | |
| <p>目的：</p> <p>アメリカでは毎年過剰飲酒が原因で約4500人の未成年者が亡くなり（殺人、自動車事故、自殺など）、一人の死亡により平均約60年の人生が失われている。多くのエビデンスに立脚した未成年者の飲酒率を減らす為の対策は、アルコールの消費税増税、アルコールを販売する場所やアルコール飲料の販売を制限するなど、アルコール飲料に特異的であり、未成年が飲むアルコール飲料の種類はどんなものであるかを特定するのは対策をたてる上で重要である。しかしこういったデータはほとんどないため、今回検討の対象とした。</p> <p>方法：</p> <p>9-12学年の未成年者がよく飲むのはどのようなアルコール飲料かを調査するため、Centers for Disease Control and Prevention (CDC)は、質問項目の中に飲んだアルコールの種類を聞くものがある2005年 Youth Risk Behavior Survey (YRBS) のデータ (Arkansas, Nebraska, New Mexico, Wyoming の4州分) を分析した。</p> <p>結果：</p> <p>最近飲酒した、大量に飲んだと答えた9-12学年の未成年者がよく飲むアルコールの種類は蒸留酒（バーボン、ラム、スコッチ、ウオッカ、ウイスキーなど）であることがわかった。</p> <p>結論：</p> <p>飲酒対策を考える上で、アルコールを入手する時の値段に影響を受ける傾向があったり、特定のアルコール飲料を飲む傾向が強い若者の飲酒を問題にする場合には、アルコール飲料別に対策を考えることが重要である可能性が示唆された。</p> | |